

# 平成 30 年度第 2 回 成田市まち・ひと・しごと創生推進会議会議録

## 1 開催日時

平成 31 年 3 月 11 日（月） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 00 分

## 2 開催場所

成田市花崎町 760 番地

成田市役所本庁舎 3 階 第 2 応接室

## 3 出席者

(委員)

関根座長、宇野澤副座長、小川委員、吉岡代理、佐藤委員、濱野委員、西留委員、  
長岡委員、宮崎委員、吉高委員、肥田委員、深堀委員

(事務局)

企画政策部 宮田部長

企画政策課 米本課長、西宮課長補佐、平野主幹、青菜主任主事、中村主任主事

## 4 議事（要旨）

総合戦略の見直しについて

(1) 数値目標及び KPI について

(2) 新たな地方創生の取組みについて

- ・「成田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る数値目標・KPI の変更や主要事業の追加・修正などの見直し内容について説明を行った。

(3) 平成 31 年度の主要事業について

- ・平成 31 年度当初予算に計上されている主な事業について説明を行った。

## 5 質疑等

(1) 数値目標及び KPI について

□外国人のための日本語教室は年に何回開催しているのか。国籍や習熟度別の対応は行っているのか。

⇒日本語教室は週 4 回開催している。国籍や習熟度によるクラス分けや個別対応等はないようだが、今後は外国人の増加に向けて全庁的に対応していく必要があると考えているため、言語教育や生活面なども含めて、外国人と共生できる社会になるよう取り組みを行ってまいりたい。

□家庭児童相談の終結件数に関する指標について、虐待に関する相談が増加することで目標が達成される形となっているが、数値の増加は必ずしも良いことではないように思う。終結件数ではなく、終結率を指標とするのが良いのでは。

⇒ご指摘のとおり、傾向として相談件数自体が増加しており、それに伴って終結件数が増加している状況である。相談の終結割合を高めていくという考えのもとで設定している指標であるので、次期総合戦略を策定する際には、より分かりやすい指標となるよう見直しを検討してまいりたい。

□待機児童に関する指標として、「保育園等及び地域型保育事業所の待機・保留児童数」と「児童ホーム待機児童数」の2種類が設定されているが、両者の違いは。

⇒主に対象年齢が異なっており、保育施設は小学校就学前の子どもを預かるのに対し、児童ホームは主に小学校低学年の児童を対象として、学校の敷地内もしくは隣接地において、放課後の居場所を提供するものである。

## (2) 新たな地方創生の取組みについて

質疑なし

## (3) 平成 31 年度の主要事業について

□平成 31 年度の主要事業として挙げられた約 50 事業の内、総合戦略に掲載されているのは 2 割強であり、思ったよりも少ない印象を受けた。直接掲載されていなくとも、関係している事業の数は更に多いということか。

⇒間接的に地方創生に関係している事業は多くあるが、全てを掲載することが叶わないため、総合戦略には主要な事業を抜粋して掲載している。総合的に様々な事業を行っていくことがまちの魅力につながり、子育て世代が集まり、働きやすさを実感できるまちになることから、そういった意味では切り口の異なる総合計画ともいえる。

□生活支援コーディネーターは全地域を対象として配置されているが、第 2 層は成田地区のみであり、他の地域にも希望する声が上がっている。今後の見通しは。

⇒来年度は成田地区 1 か所のみとなるが、今後は検証を行いながら、他の地域についても検討していく。

□10 年後を目途に空港の第 3 滑走路が完成すると言われており、その頃には圏央道も開通していると思われることから、この先 10 年で成田の将来が決まるといっても過言ではない。総合戦略の中にも空港を生かしたまちづくりに関する内容があるが、産業集積や企業誘致などの項目について、平成 32 年度以降の次期戦略において、取り組みを強力に進めていく必要があると考える。

⇒吉倉地区周辺のまちづくり事業において、大学病院や機能強化に伴う人口増加の受け皿として、駅周辺は住宅地として、病院周辺は医療系の産業集積を進めてまいりたいと考えている。

また、市場の再整備においては、圏央道も開通するため、農地となっている周辺の土地を物流拠点として活用できるよう、農地転用や農振除外の権限移譲について、特区等も活用して国に働きかけたいと考えている。

□子育て支援に関して、市では私立保育園の開設費用を支援しており、来年は3つの保育園が開園する予定となっていることから、待機児童解消に繋がると思われる。また、小規模保育事業に関しても、特区制度を活用することで3歳以上になっても引き続き子どもを預けられるようになるなど、成田市には特区に認定されているアドバンテージがあることから、今後も積極的に活用してまいりたいと考えている。

□指標の「マザーズコーナー利用者の就職件数」に関する情報提供だが、先週末時点での最新の実績値は135人で、基準値からの累計が738人となることから、最終目標の90%ほどに到達している状況である。来年度の第1四半期くらいでの目標達成が見込まれることから、目標値の調整が必要になってくると思われる。

⇒指標については、次期総合戦略を策定する際に見直しを検討してまいりたい。

□小規模保育における受け入れ拡大に伴い、施設は改修されるのか。

⇒今在園している子どもが継続して通えるということで、問題となるのは一般の保育所における園庭のような運動するための場所だが、対象となる小規模保育の施設は、既にそういった場所を持っていたり、公園に隣接していることから、施設の改修等は行わずハード面は現状のまま対応できると聞いている。

#### (4) 意見交換

□深刻な労働力不足にある中で、今後も空港の機能強化等で人手が更に必要となってくることから不安を感じている。今掲げられている取組みの他に、平成32年度以降の総合戦略を見据えて新たに検討している事業などはあるか。また、国家戦略特区を生かした取り組みなどはできないのか。

⇒新規の取組みではないが、中小企業が人材不足に陥っていることを受けて、2年前から市内の中小企業と若手人材とのマッチングイベントを実施しているところである。

また、特区制度を活用して外国の方が成田市に就労しやすくなるような提案等も行ったが、事業認定をして規制緩和をするのではなく、現行の制度運用の中で認めるといったもので、現在も協議中の案件があるものの事業化はされていない状況である。引き続き特区を活用しながら、人手不足の解消を図る取り組みを行ってまいりたい。

□労働行政は基本的には県が担っており、市が直接的に支援を行うのは難しいが、マッチングイベントや外国人向けの相談など、側面的な支援を行うことはできる。市全体に関わることなので、相談体制などの構築などについて、今後速やかに検討して開設したい。ただ、英語だけではなくタガログ語やシンハラ語なども含めて相談体制を作るとなると、市町村では人材確保の面で厳しいものがあり、それがネックとなっているので、県から支援を受けて実施する他ない。現在考えられているのは、外国人労働者が一旦研修施設のような所に入り、生活習慣や用語などを覚えてから各地へ送り出すことなどだが、場所や期間など、民間の会社も含めて検討しなければならない課題である。

□児童ホームは何歳までを対象としているのか。保育園が増えて働くお母さんが増えれば、それに伴い児童ホームの需要も増えると思われる。小学6年生までの定員を確保できれば仕事を続けられる人が増えると思うので、児童ホームについても施設の拡充をお願いしたい。

⇒児童ホームは小学生を対象としているが、受け入れ人数に制限があるため小学3年生までを中心に利用している。定員の確保については現在、施設整備を進めているところではあるが、追い付いていない現状がある。

□スポーツイベントは規模が大きくなるほど、成田市単独で行うのではなく広域的な連携が必要になると思うが、他の自治体との連携等は行っていくのか。

⇒2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けたホストタウン事業を実施しているアメリカ陸上チームに関しては、佐倉市や印西市、千葉県などと合同で事前キャンプの受け入れを行っている。県が中心になって取りまとめている部分も多く、去年のソフトボール世界選手権の際も県が窓口になっていた。また、ちば国際コンベンションビューローという組織もあり、広域的な取組みの提案などを行っている。

□2020年度に開催されるパラリンピック大会において、成田市はアイルランドの事前キャンプ受け入れ先となっている。先日、日本パラリンピック委員会の副委員長の方がお見えになって講演会をされたときの話で、チケットの面で最も成功したパラリンピックはロンドン大会と言われており、チケットは完売したそうだが、その一方で実際の入場者数は6割ほどだったそう。そこで委員の皆様をお願いしたいのが、どうか会場に足を運んでほしいということ。大会誘致の際にも日本の「おもてなし」を強調していたが、選手にとっての最大のおもてなしは、会場に行って応援することだそうなので、日本が障がい者に優しい国であると発信する絶好の機会に、是非見に行っていたきたい。市としてもある程度チケットを揃えて、市民で参加者を募って応援に行きたいと考えている。

□平成 30 年度のふるさと納税による歳出超過額はいかほどか。

⇒流入額 3,600 万円に対し、流出額が 1 億 2,500 万円と、9,000 万円程度のマイナスとなっている。

□LCC を利用して大分に行ったが、現地の方は LCC 自体に馴染みが薄く、成田空港と大分を結ぶ路線があることもあまり知らないようだった。大分からも成田に来てもらえたら良いと思うので、是非 PR をしていただきたい。

□LCC に関しては地道な PR を続けており、成田近郊の方にとっては地方に出やすくなっているが、今後は地元の方たちにも PR できたら良いと思う。